

## 縫製に関する用語について

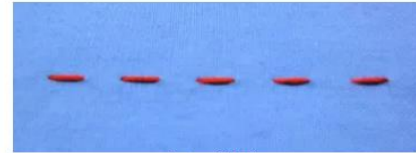
### 1 縫い方の基本について（代表的なもの）

#### (1) 並縫い

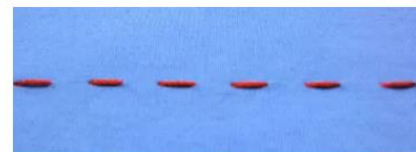
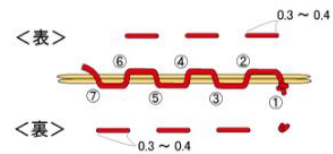
手縫いの中では最も基本となる縫い方で運針とも言う。2枚の布を中表に合わせて縫い合わせる時に用いる。

1針が0.3~0.4cmで両面が同じ針目の間隔になるように縫う。

縫い終わったら2,3回糸をしごき、布にしわがよらないようにする。



並ぬい（表面）



並ぬい（うら面）

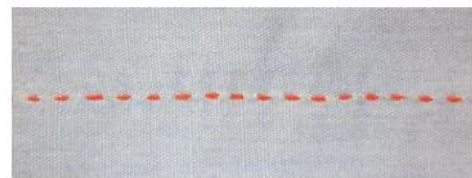
#### (2) ぐし縫い

針先だけを動かして、しつけ糸でごく細かい針目 0.1~0.2cmで縫う方法。

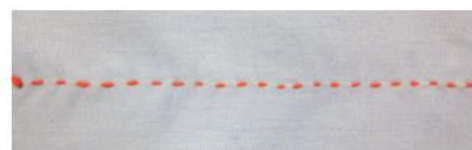
袖山やタイトスカートのウエストラインを縫い縮める（いせる）ときなど、布の立体化に用いる。

また、異なる寸法のところを縫い合わせるときなどにも用いる。

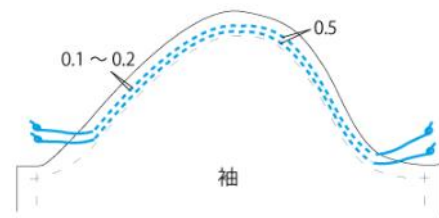
縫い縮めた部分（いせ）がにげないように平行に2本縫い(0.5cmの間隔)、糸を一緒に引いて縫い縮める（いせ）分量を調整し、アイロンで整えて立体的にふくらみをつける。



ぐしぬい（表面）



ぐしぬい（うら面）



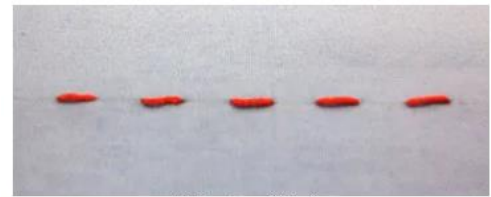
### (3) 半返し縫い

縫目の補強や縫い始め、縫い止まりの糸がほつれないようにするために用いる。

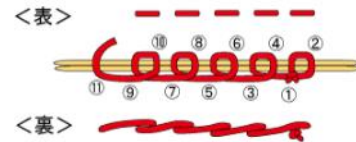
縫い進みながら1針戻って、2針先に針を出す。

きつくなったりゆるくなったりすると後から修正するのが難しいため、糸を引っ張る強さに注意する。

少し伸びる素材の布地に向いている。



半返しぬい (表面)



半返しぬい (うら面)

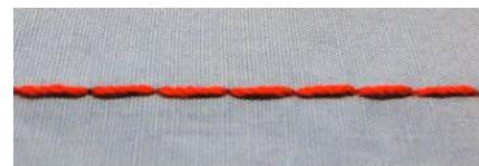
### (4) 本返し縫い

縫目の補強や縫い始め、縫い止まりの糸がほつれないようにするために用いる。

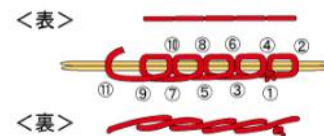
縫い進みながら1針戻ったところに針をさし、1針先に針を出す。

きつくなったりゆるくなったりすると後から修正するのが難しいため、糸を引っ張る強さに注意する。

半返し縫いよりも頑丈に縫える。



本返しぬい (表面)



本返しぬい (うら面)

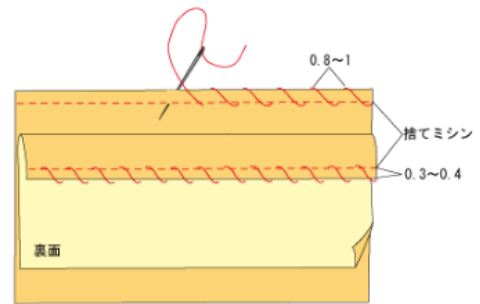
### (5) かがり縫い

布がざっくり織られてほつれやすく、ロックミシンが効果的にかかけられない場合（滑脱する場合）に、縫い代の端を手でかがって始

末する方法。

ややほつれやすい布には、先に縫い代の布端 0.3~0.4cm のところにミシンをかける(捨てミシン)。

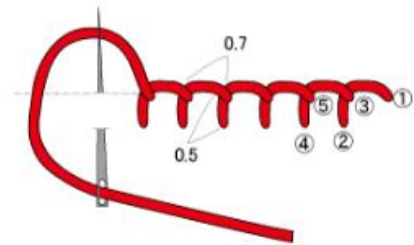
次にミシンの糸も一緒にすくうようにして 0.8~1cm 間隔で 1 針ずつ針を抜き、糸がつかないように斜めにかかる。



#### (6) ブランケットステッチ

フェルト素材などアップリケの縁飾りのステッチで厚手の布やほつれてきやすい布、縫い代が何枚もかさばりロックミシンがかけにくい場合などの縫い代の始末に用いる。

縫い代の裁ち端 0.5cm に針を布端に向けて刺し、糸を針先の下にからめ引っ張りすぎないように注意して針をぬき、0.7cm 前後の間隔で繰り返す。



作品例 (ピンクッション)



ブランケットステッチを施した作品 (ピンクッション)

#### (7) まつり縫い

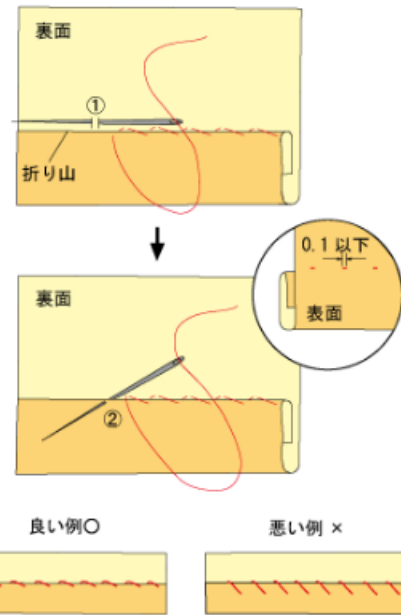
裾や袖口などの折り代を始末する方法で、表面に針目を目立たせたくない場合に用いる止め方。柔らかい布地や裏地に動きを持たせて止めつけたい時に用いる。

表布にごく小針(織り糸 1, 2 本)ですくう方法。厚地の場合は、布

の厚み半分をすくう。

上布の端 0.1~0.2cm のところに針を出し、間隔は 0.5~0.7cm でまつり糸を斜めに進め、下布を水平に1針 (0.1cm) すくう。

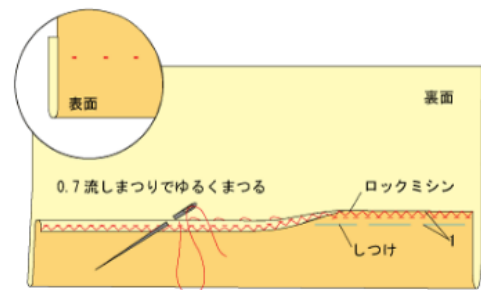
糸を引き気味にすると表面の仕上がりがつっぱるので注意する。ひと針ずつ針を抜かず、一気に針を抜いてもよい。



#### (8) 奥まつり

折り代の布端がほつれないようにロックミシンなどで始末をして出来上がり線で折り上げ、1cm 下をしつけで押さえ、折り代をめくって0.5cm 奥側のところをまつり縫い (流しまつり) と同様にまつる。

まつった糸は裏面からは見えない仕上がりになる。

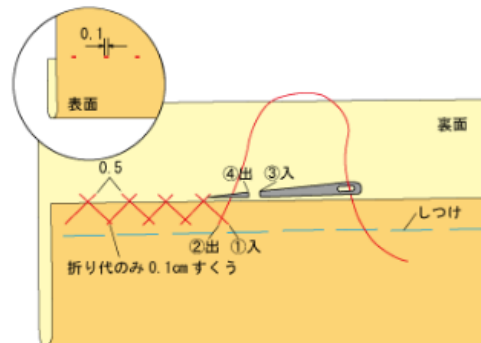


#### (9) 千鳥がけ

毛織物など折り代の布端を裁ち目のまま止めつけるのに用いる方法で、柔らかい仕上がりになる。

先に布端 1cm のところにしつけをかける。糸を斜めに交差させ、0.5~1cm の間隔で上下を交互に、左から右へ返し縫いの要領で縫う。

上は表布を、下は折り代のみ



0.1cm すくい、表面には小さな針目が1つ出る。

より丈夫に止める方法で針目の間隔を狭くして、左から右へ上下とも表まですくう立ち千鳥がけもある。

ずれやすい生地や厚手の生地の裾上げなどにも用いられる。

## 2 工程の中で表記されている作業方法について（一例）

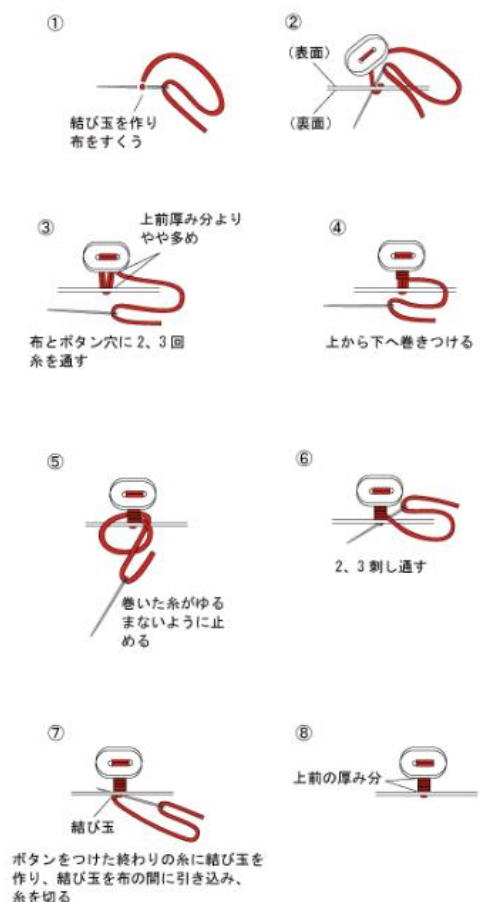
### （1） ボタン付け

ボタンつけ糸は、表地やボタンのつく位置の厚み、ボタンの重さなどを考えて決める。特にメタルボタンは重いため、糸が切れやすく、丈夫なつけ方にする。普通は穴かがり糸が適当であるが、ボタンつけ専用の糸もある。

表面で結び玉を作り、表布をすくう。ボタンの穴に通して裏面に針を出し、ほぼ同じ位置で表面に針を出して、上前厚み分よりやや多めに隙間を取りながら布とボタン穴に2,3回糸を通す。

ボタン下を上から下へ上前の厚み分巻きつける。巻いた糸がゆるまないように止めて裏面に針を出し、表面、裏面と2,3回刺し通す。

ボタンをつけた終わりの糸に玉



結びを作る。玉結びを布の間に引きこみ、糸を切る。

ジャケットやコートなどのようにボタンが大きくて、布地に負担がかかる場合は、裏側に小さな力ボタンをつけて丈夫にする。



(四つ穴ボタン 糸を交差させて縫ったもの)



(四つ穴ボタン 交差させる糸の色を変えたもの)

## (2) スナップ付け

ボタンあきより簡単にとめはずしができる。飾りボタンを使ったデザインやファスナーのつけられない柔らかい布、レースなどのあきに用いる。上前のつけ位置に凸形を、下前に凹形をつける。

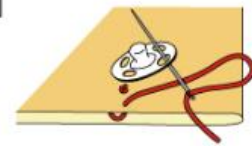
スナップのつけ位置の端を1針すくう。上前は表に出ないように、裏側の布（見返し）1枚をすくう。

スナップの1つの穴の大きさに合わせて数回縫い付ける。最後は玉どめをし、スナップと布の間に糸を引き込んで切る。

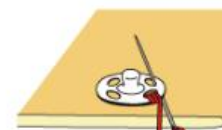
下前は布を2枚ともすくい、上前の場合と同じようにつける。

スナップをしっかりつけたい場合は、穴に通した針先の下に糸をかけて針を抜き、糸を引き締め結び目をつける方法もある。高級な仕立てとして、スナップを目立たせないように、表布と同色の裏布でスナップを包んでつける方法もある。

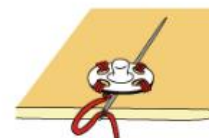
### 上前



①表に出ないように、裏側の見返し1枚をすくう。

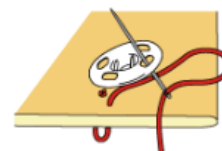


②1つの穴に2、3回縫い付ける。



③最後は玉どめをし、スナップと布のあいだに糸を引きこんで切る。

### 下前



布を2枚ともすくい、上前の場合と同じようにつける。

### (3) ホック付け

ホックはかぎ形になった留め具で、スカートやパンツのベルトには板金製の丈夫なホックを、ワンピースドレスのファスナーの上端や突合せになった衿もとや前あきには、針金製のホックを使用する。

色はシルバー、黒、紺などがあるので、布地の色に合わせて目立たせないものを選ぶとよい。布地の色に合わせた穴かがり糸を用いる。

ベルトにつける場合は持ち出しの無い側にかぎ形をつける。

ホックの所定の位置に、待ち針をホック穴に刺して固定する。

布地をすくいながら（数回はベルト芯まですくう）針をかぎホックの穴にくぐらせる。

糸の輪を下から針先ですくい、糸を通す。糸を引き、輪を引き締める。

間隔をあけずに放射状に糸足をそろえ、縫い終わりは玉どめをする。玉どめは見えないように布地に引き込んでから糸を切る。残りの穴も同じ手順でかかる。

①布地をすくいながら針をかぎホックの穴にくぐらせる。



②糸の輪を下から針先ですくい、糸を通す。



③糸を引き輪を引き締める。



④放射状に繰り返す。



④縫終りは玉止めをする。  
玉どめは見えないように布地に引き込んでから糸を切る。  
残りの2か所も同じ手順でかかる。



**【引用元】**

武庫川女子大学教育学部教育学科の家庭科研究室（吉井研究室）

「武庫川女子大学家庭科教材」

URL : [https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kateika/kyozai\\_main.html](https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kateika/kyozai_main.html)

（吉井准教授から許可済み。無断での転載等は不可。）